

合志の旋風 ～自律協働貢献～

令和 8 年 1 0 月 2 日（金）No 2 1 発行
文責：松本 卓也

科学する夏 ～菊池郡市科学展・発明工夫展～

菊池郡市科学展・発明工夫展が、26 日（土）、菊池市立七城小学校で開催されました。本校からは、科学展に 24 点の作品を出品し、3 年生の Y さん、A さん、1 年生の K さんが金賞に選ばれました。3 名の皆さんに、科学展（自由研究）に取り組んだ感想等を尋ねました。



①研究テーマを教えてください

Y さん：「メダカの最強な生育環境を探る！です。」

A さん：「柱の空洞の大きさとトラス橋の強度の違いです。」

K さん：「タンポポの根っこ再生です。」

②なぜ、調べてみようと思ったのですか？

Y さん：「家でも魚を飼っており、元々生物に興味がありました。暑い中、店外で魚が飼育されているのを見て、興味をもちました。」

A さん：「小 6 の時、JAXA のイベントでトラス構造のアドバイスをいただいたことがきっかけです。条件を変えながら、中 1 から継続して調べています。」

K さん：「誤って踏んでしまったタンポポが、枯れずに生きていたことに驚いたからです。」

③科学展（自由研究）に取り組んでみて、楽しかったことは何ですか？

A さん：「予想していたことと違う結果が出るのが面白かったです。」

K さん：「掘り起こした際、毎日、少しずつ再生していくのが見られて嬉しかったです。」

④大変だったことは何ですか？

Y さん：「ありません。日光が直接当たってメダカが弱らないよう、発砲スチロールで水槽を囲む工夫も楽しみながらできました。」

⑤今後、調べてみたいテーマはありますか？

Y さん：「やっぱり生物です。メダカ以外の動物でも調べてみたいです。」

A さん：「昨年、建物の形状による強度を調べたので、柱を空洞にするとどうなるか？調べてみたいです。」

K さん：「短い期間で取り組んだので、花が咲くまで調べられませんでした。もう少し長い期間調べたり、他の植物でも再生できるか調べたりしたいです。」



科学展（自由研究）に取り組むことで、「①仮説を立てる、②研究計画を立てる、③観察や実験を行う、④結果を記録する、⑤考察する、⑥まとめる」という“問題解決型学習（PBL）”の手法が身につきます。3 年生の Y さんは生物をより深く学べる学科への進学を、A さんは建築設計に関わる業種に就きたいと語ってくれました。興味・関心を自らのキャリア形成に生かそうとしている 2 人に敬意を表するとともに、合志中の子どもたちには、学生時代に単に知識を学ぶだけではなく、色々なことに好奇心を持ち、それを突き詰めていく経験をたくさんしてほしいと願っています。



私たち一人一人ができること ～ご協力、ありがとうございました～

令和 8 年熊本地震による被災者及びご家族の皆様に対しまして、心よりお見舞い申し上げます。皆様の安全と被災地の日も早い復興を心からお祈りいたします。本校生徒会では、8 月 31 日（月）から 9 月 11 日（金）までの 2 週間、「私たち一人一人ができること」として、各ご家庭に募金活動へのご協力を呼びかけました。お寄せいただいた募金は 33,470 円となり、子どもたちのメッセージを添えて、秋休みに自治体に届ける予定にしております。多くのご家庭から温かいお気持ちが寄せられましたことに、心から感謝申し上げます。被災者の方々に、勇気や元気をお伝えすることができるよう、これからも、「思うこと、寄る添うこと」「できることをやっていくこと」「一生懸命取り組むこと」を子どもたちと共に実践していきたいと考えております。今後とも、本校教育活動へのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。



※ご意見や感想をお待ちしています。「見ました」の一言でも構いません。

保護者名（ ）